

# 命にかかわる重大問題…小学校の給食アレルギー事故

## 真相、原因、責任を明らかにし、再発を防ぐ万全の対策を

文教経済常任委員協議会が10月30日に開催され、9月5日、市内の小学校で発生した食物アレルギー事故の経緯と今後の対応が報告されました。

この事故は、市内の小学校で食物アレルギーのある児童に提供してはならない「乳成分」が入った給食を食べさせてしまい、その児童は重篤なアレルギー症状を発症、救急搬送され入院したというものです。専門医によれば、命を落としかねない、極めて重大な事故だったとのこと。

今回の事故では、児童が給食を3分の1ほど食べた後、腹痛を訴えてトイレに駆けこんだとのこと。この時点でアナフィラキシーショック（アレルギー反応が引き起こされ、血圧低下や意識状態の悪化などが出た状態）が生じていたことが推定されます。ところが、学校での児童に対するその後の対応にいくつもの問題があり、アナフィラキシーショックに対応する緊急薬であるエピペンを打ったのは、発症から18分後だったということが明らかになりました。

専門医によると、通常、エピペンは5分以内に打つべきとされているといいます。それだけに学校の今回の対応は大問題です。11年前に東京都調布市で発生し

た食物アレルギー事故では、発症から14分後にエピペン注射したものの、11歳の女子児童が亡くなっています。

また、この日の給食に「乳成分」が入ってしまった原因には、栄養職員が事前に成分を確認しなかったことや、調理員が原材料の確認の際に記載を見落としたことなどがあり、複数のミスが重なっていたことも明らかにされました。

委員協議会では、教育委員会の説明後、委員から、「命にかかわる1分1秒を争う事案で、命をなくす危険性があった。対応に問題があると言わざるを得ない。教育委員会、学校現場の（二度と起こさないという）決意が伝わってこない」「適切な対応をとっていればこのようなことは起きなかった。事故概要の書き方はこれでいいのか。エピペンを打つまでに要した時間は8分とあるが、症状が出たところからは18分だ。18分はものすごい危険な時間だ。（記述を）訂正すべきだ」「検証委員会（発言は検討委かも）の議事録を公開してほしい」「事故の1か月前に研修があったのに、なぜ事故が起きたのか」などの質問が相次ぎました。

これに対して市教委は、「『事故の概要』の記述は当初書いたものをそのまま

載せた。直したい」「腹痛を訴えたところから（エピペンを打つまで）の時間は、合わせて18分だ」「議事録は個人情報が入ってくるので公開は考えていない」などと答えていました。

市教委では今後、緊急時の対応研修会を実施するほか、事故の検証、関係者及び外部有識者の意見を踏まえた事故防止対策、改善策を取りまとめ、1月には事故報告書として公表するとしています。

委員協議会での質疑を通じて、事故の実態がかなり具体的にわかってきました。しかし、学校現場における校長の指導などがどうであったか、学校運営協議会にどう説明したのか、市教委の説明では、アレルギー症状が出てからエピペンを打つまでの時間をなぜ2つに区分したのか、担当専門医がいるにもかかわらず、その医師をのぞいて検証しようとしているのはなぜか、などわからないことがいくつもありました。事は子どもの命にかかわる重大問題です。今後、解明に向けて全力を挙げなければなりません。



【ゴマナ】キク科多年草。漢字で、「胡麻菜」と書きます。名前の通り、葉はゴマの葉に似ています。ゴマナはキク科の中でも背が高く、高いものは1.5mほどになります。花期は9～10月です。紫白い花は目立ちます。花言葉は「秘密の愛」「永遠の愛」「内気な恋心」です。写真は10月19日に吉川区川谷にて撮影しました。

第18回大島音楽祭は、大島保育園児の踊りから始まって、キーボード、ギター、コーラスなどが次々と登場しました。最後は大島中学校と混声合唱団「コール大島」による合同演奏で締めました。H先生の独唱は見事でした。大島音楽祭は今回で幕を下ろしました。



# はしづめ法一の活動レポート

No.2132 2023.11.5

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 命にかかわる重大問題…小学校の給食アレルギー事故

## 真相、原因、責任を明らかにし、再発を防ぐ万全の対策を

文教経済常任委員協議会が10月30日に開催され、9月5日、市内の小学校で発生した食物アレルギー事故の経緯と今後の対応が報告されました。

この事故は、市内の小学校で食物アレルギーのある児童に提供してはならない「乳成分」が入った給食を食べさせてしまい、その児童は重篤なアレルギー症状を発症、救急搬送され入院したというものです。専門医によれば、命を落としかねない、極めて重大な事故だったとのこと。

今回の事故では、児童が給食を3分の1ほど食べた後、腹痛を訴えてトイレに駆けこんだとのこと。この時点でアナフィラキシーショック（アレルギー反応が引き起こされ、血圧低下や意識状態の悪化などが出た状態）が生じていたことが推定されます。ところが、学校での児童に対するその後の対応にいくつもの問題があり、アナフィラキシーショックに対応する緊急薬であるエピペンを打ったのは、発症から18分後だったということが明らかになりました。

専門医によると、通常、エピペンは5分以内に打つべきとされているといいます。それだけに学校の今回の対応は大問題です。11年前に東京都調布市で発生し

た食物アレルギー事故では、発症から14分後にエピペン注射したものの、11歳の女子児童が亡くなっています。

また、この日の給食に「乳成分」が入ってしまった原因には、栄養職員が事前に成分を確認しなかったことや、調理員が原材料の確認の際に記載を見落としたことなどがあり、複数のミスが重なっていたことも明らかにされました。

委員協議会では、教育委員会の説明後、委員から、「命にかかわる1分1秒を争う事案で、命をなくす危険性があった。対応に問題があると言わざるを得ない。教育委員会、学校現場の（二度と起こさないという）決意が伝わってこない」「適切な対応をとっていればこのようなことは起きなかった。事故概要の書き方はこれでいいのか。エピペンを打つまでに要した時間は8分とあるが、症状が出たところからは18分だ。18分はものすごい危険な時間だ。（記述を）訂正すべきだ」「検証委員会（発言は検討委かも）の議事録を公開してほしい」「事故の1か月前に研修があったのに、なぜ事故が起きたのか」などの質問が相次ぎました。

これに対して市教委は、「『事故の概要』の記述は当初書いたものをそのまま

載せた。直したい」「腹痛を訴えたところから（エピペンを打つまで）の時間は、合わせて18分だ」「議事録は個人情報が入ってくるので公開は考えていない」などと答えていました。

市教委では今後、緊急時の対応研修会を実施するほか、事故の検証、関係者及び外部有識者の意見を踏まえた事故防止対策、改善策を取りまとめ、1月には事故報告書として公表するとしています。

委員協議会での質疑を通じて、事故の実態がかなり具体的にわかってきました。しかし、学校現場における校長の指導などがどうであったか、学校運営協議会にどう説明したのか、市教委の説明では、アレルギー症状が出てからエピペンを打つまでの時間をなぜ2つに区分したのか、担当専門医がいるにもかかわらず、その医師をのぞいて検証しようとしているのはなぜか、などわからないことがいくつもありました。事は子どもの命にかかわる重大問題です。今後、解明に向けて全力を挙げなければなりません。



【ゴマナ】キク科多年草。漢字で、「胡麻菜」と書きます。名前の通り、葉はゴマの葉に似ています。ゴマナはキク科の中でも背が高く、高いものは1.5mほどになります。花期は9～10月です。紫白い花は目立ちます。花言葉は「秘密の愛」「永遠の愛」「内気な恋心」です。写真は10月19日に吉川区川谷にて撮影しました。

3日の「牧っこ秋まつり」では、絵画などの作品展を楽しみ、その後、中学校の学習発表へ。

牧っこ秋まつり



はしづめ法一の  
活動レポート

No.2132 2023.11.5

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第七七九回

### 朝風呂

温泉に泊まった時の楽しみの一つは朝風呂です。今回の地元老人会の旅行でも朝六時頃にお風呂に入りました。

浴衣を脱いで、すっぱんぼんになって大きなお風呂に入ろうとしたら、その手前の小さな露天風呂に入っている人の姿が目に入りました。同じ部屋の「もりよし」さんです。

じゃ、オしも露天風呂に、そう思い仲間にしてもらいました。そこにもう一人、井上さんも加わり、朝風呂にゆっくりつかりながら、おしゃべりを楽しみました。

露天風呂の外には川の流れが見えます。きれいな水です。そして、川からの高さが七〇ほどの山が迫っています。

風呂のなかでは、まず今年の紅葉のことが話題になりました。すぐ近くのケヤキは多少色づき始めていましたが、川向こうの山はまだかなり先といった感じでした。

三人のうちの一人が、「今年は紅葉はダメだね」と言うので、「標高の高いところは遅いらしいよ。暑い夏が続いたし、秋になっても寒暖差がなかったからね」と「もりよし」さんが解説してくれました。

続いて柿です。これは私から口火を切りました。「今年は生り年なのに、今年、家の甘柿は、数が少なくてダメだね」と言いました。私が言ったのは、わが家の庭と事務所の近くにある甘柿のことです。すると、また、「もりよし」さんが、「おらちも全然だ。むいて干す皮も手に入らない」と応じてくれました。

この日の朝、旅館の川向こうの木が気になっていました。じつは前の晩、午後七時半ころから川向こうの舞台で、ライトが照らされる中、踊りが披露されました。その際、舞台の左上後方にオレンジ色のものが見えていたのです。その時、柿だろーと想像していました。やはり、柿でした。

柑橘類も話題になりました。まずは、ゆ

ずです。

「正式には近江柚子と言うんだでも、家のそばで、でっかいのがいくつもなった。みんな受粉手伝った。元農協職員だった原之町のHさんの隣の家のゆずは見事だ」

キンカンは、花の話から。少し前、「もりよし」さんの家の植木鉢で、小さな白い花が咲いていたので、スズコさんに「これ、なんていう花だね」と尋ねたことがありました。「キンカンです」という言葉を聞いて、「これがキンカンなんだ」と言っていて、黄色の小さな実をつけるところまで想像しました。そして、「今度、チラシに載せてもらおうね」と約束したものです。そのことを私が言つと、

「キンカンの花は三度咲く。二回目のが実をつける。これもオしがつけた」

そう言つて、「もりよし」さんが教えてくれました。正直言つて、こんなに詳しいとは思っていませんでした。冗談交じりに、「自家受粉じゃ、かわいそうだね」と言つと、「人間と同じように、花には花の世界があるんさ」という言葉が返ってきました。

朝風呂談義の中で一番賑やかになったのは栗の実のことです。井上さんの、「今年ハ豊作だ」という言葉を皮切りに、

「山栗ですか」

「家栗です」

「皮は剥きやすいように、水に浸しておくのかね」

「いや、生のまま皮むいてる」

「手が痛くなるんだよね。おっかさ、ゆびにテープ巻いてる」

「うちも生だ」

「うちは皮剥き器、使っている」

話は、ゆっくりつなげていきました。

朝風呂で久しぶりに味わった朝のゆつた感、いいもんですね。この日は一日中、元気に飛び回るこつができました。

## 原子力防災訓練、柏崎市からも参加

10月19日、柏崎刈羽原発で事故が発生した想定で訓練が行われました。避難訓練では30キロ圏内の上越市民だけでなく、柏崎からの避難者も受け入れました。

今回の訓練では、避難先に向かう途中、放射性物質の汚染がないかどうかを調べるスクリーニング検査も行われました。

9月議会の質問でも明らかにしたように、安全な避難を確実にできるようにするには、降雪期の対応、ウイルス感染症対策との両立などいくつも課題があります。イラストは吉川区旭地区から避難した人たちです。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月17日(火)	10月31日(火)
上越南消防署	0.047	0.053
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.043	0.057
頸北消防署	0.040	0.040
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.050	0.043
名立分遣所	0.050	0.057
高士分遣所	0.047	0.050

## 「医師増やして病院守って」など要望多数

日本共産党上越市議団と馬場秀幸県議による市政・県政報告会を30日、市民プラザで開催しました。今回は馬場県議と市議団の3人の市議が9月定例議会の報告をしたのち、意見交換をしました。

参加した市民からは「LED街灯の交換の時期が来ている。補助制度がほしい」「新幹線上越妙高駅に朝昼晩だけでもいいから、かがやきをとめて」「最終処分のできない原発はやめてほしい」「医師確保に力を入れ、労災病院を守って」などの声寄せられました。

